

第3学年 保健体育科 学習指導案

授業者 小原 幸尋

- 1 日時 平成16年10月14日(木) 5校時
- 2 学級 3年A組 男13名 女16名 計29名 小友中学校体育館
- 3 単元名 球技「バスケットボール」

4 単元について

球技は、ボールなどを媒介として、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し得点を取り合っ
て勝敗を競うことをねらいとし、チームの課題や自己の能力に適した課題の解決に取り組んだり、
ゲームを楽しんだりする運動である。バスケットボールは、スピード感あふれる球技であり、
運動量も多く、生徒も比較的好む教材である。ゲームは一瞬にして攻守が入れ替わるスピー
ーディーな展開のため、ボールコントロールやボディーコントロールなどの習得が必要であり、
さらにパスやドリブル、シュートなどの細かい技術の習得と、瞬時に変化する場面に応じた判
断力も要求される。また、チームで攻撃と防御の作戦を立てる楽しさを体験し、それを達成し
たときの喜びを分かち合うことができるスポーツである。バスケットボールの学習を通して、
瞬発力、持久力、調整力、敏捷性、判断力などを養うことができるとともに、共通の目標に向
けて協力し合いながら努力することの大切さを学ぶことができる。

3年A組の生徒は、バスケットボールを3年間継続して学習している。1年生では、個人的
な基礎技能の習得、2年生では、基礎技能を高めるとともに基本的な集団技能の習得を目指
して取り組んできた。ほとんどの生徒は前向きに授業に取り組んでおり、特に男子生徒は、集団
球技の部活動に所属している生徒が多く、ゲームでは意欲的な姿勢が見られる。しかし、新体
力テストの結果を見ると、持久力や瞬発力などで個々の体力の差が大きく、パス・ドリブル・
シュートなど基礎技能の差も大きい。そのため基礎技能の低い生徒の中には消極的な組み
の生徒も見られる。また、ゲームでは、個人の技能に頼るプレーが多く、練習した集団技能や
戦術があまり生かされていない。

指導にあたっては、毎時間、バスケットボールに必要な基礎技能を高めるために、ボールコ
ントロールとボディーコントロールを内容としたドリルに取り組ませる。また、学習プリント
を使い、自己分析やチームのメンバーと意見交流をしながら、チームの戦術や個人の課題を明
らかにし、その課題解決に向け戦術や練習方法を考え、チームごとに練習させる。その中で、
自分の意見を仲間に伝えることや、仲間と協力し合う姿勢を大切にさせていきたい。

5 指導計画

(1) 単元の目標

チームの戦術を考えて練習やゲームを行い、ゲームを通して課題の解決を図るとともに、集団技能や個人的な基礎技能を高める。

(2) 単元の評価規準

【運動への関心・意欲・態度：ア】

- ・ルールや作戦を工夫して、勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わおうとする。
- ・チームにおける自分の役割を果たし、協力して練習やゲームをしようとする。

【運動についての思考・判断：イ】

- ・課題の解決に向けて、ルールを工夫したり作戦を立てたりしている。

【運動の技能：ウ】

- ・チームや自分の能力に応じた課題の練習やゲームを通して、集団技能や個人的な基礎技能を高めることができる。

【運動についての知識・理解：エ】

- ・集団技能や個人的な基礎技能、合理的な練習の仕方を知る。
- ・試合の運営やルール、審判の方法を知る。

(3) 指導計画 (12時間扱い)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
オリエンテーション	ウォーミングアップ											
	個人的な基礎技能の習得 (ドリブル・パス・シュート等)											
	チ ム 編 成	試 し の ゲ ム	全体で課題の確認									総 当 り の リ ー グ 戦
			チーム毎に課題・練習内容の確認									
			チーム練習									
練習の成果を確認するゲーム												
チーム・全体ミーティング												

6 本時の指導

(1) 目標

- ・既習の戦術をもとにしながら、チームごとに作戦（オフェンス、ディフェンス）を考えて練習し、ゲームで有効に使うことができる。【運動の技能】
- ・技能の向上を目指し、お互いに考えを交流することができる。

【運動についての思考・判断】

(2) 指導の構想

本時は指導計画の9時間目にあたる。「今まで学んだプレーを組み合わせることでチームの得意技をつくろう」という共通の課題をもち、既習の戦術をもとにしながら、チームごとに作戦を考えて練習させる。チーム練習では、練習の意味をしっかりと把握し、お互いに協力し声をかけ合いながら取り組ませたい。また、ゲーム後、チームごとに意見交流、自己評価を行い、次時の個人・チームの課題をつかませたい。

(3) 評価規準

評価規準 (評価方法)	具体の評価規準		『努力を要する』と判断された生徒 への具体的な対応・手立て
	A:『十分満足できる』	B:『概ね満足できる』	
<ul style="list-style-type: none"> ・相手や自チームの技能を把握し、攻守の作戦を工夫しながらゲームを行うことができる。 【運動の技能】 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の技能を把握し、自チームのよいところを引き出すような作戦を工夫しながらゲームを行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手や自チームの技能を把握し、攻守の作戦を工夫しながらゲームを行うことができる。 	<p>(予想される学習状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームの戦術を理解できない。失敗ばかり繰り返し、意欲がわからない。 <p>(指導の手立て)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習の意味をしっかりと把握させ、お互いに協力し声をかけ合いながら練習させる。
<ul style="list-style-type: none"> ・技能の向上を目指し、お互いに考えを交流している。 【運動についての思考・判断】 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人的技能と集団的技能の課題を見つけ、その解決に向けてお互いに考えを交流している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技能の向上を目指し、お互いに考えを交流している。 	<p>(予想される学習状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをもてず、話し合いに参加することができない。 <p>(指導の手立て)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの視点を明示する。また、他者の考えをしっかりと聞くことで自分の考えをもたせる。

「バスケットボール」学習プリント

10月14日(木) 名前【 】

課題 『今まで学んだプレーを組み合わせてチームの得意技をつくらう』

自己評価	1	自分の力を精一杯発揮して楽しく学習できましたか	4	3	2
	1				
	2	仲間と協力して学習することができましたか	4	3	2
	1				
	3	仲間とお互いに考えを交流することができましたか	4	3	2
1					
4	チームで立てた作戦にしたがって、自分の役割を果たすことができましたか	4	3	2	
1					
5	チームの得意技をゲームに生かすことができましたか	4	3	2	
1					
4：よくできた 3：だいたいできた 2：あまりできなかった 1：できなかった					

今日の学習をふりかえって、「自分がチームのためにがんばったこと」「次の時間にがんばりたいこと」を書きましょう